図 2.　ハーバリウム内部。　2 階と中 3 階的部分。

はロッカクヤナギのタイプ株が育っている。この柳の枝は地面についてもまだ生長して伸び，ジスリヤナギの別名がある。TUSの代表的なコレクションの一つであるヤナギ類を象徴するような形で，ちょうど正面入口前にのれんをかかげた様子となった。建物は鉄筋コンクリート造り2階建，切妻屋根，建築面積約 720 m^2，延面積は約 1120 m^2 で1階部分約 490 m^2，2階部分約 630 m^2 である。1階部分には木村記念室，資料図書室，分類検索室，標本作製室，応接室，ラウンジ等が配置されている。2階部分は植物標本室と標本整理室とした。標本室のなかに大形の荷台を置いて中3階的に上下を仕切った結果，標本箱を置く面積として約 970 m^2 が利用でき，753個の標本箱を配置することができた(図2)。標本の収容数は80万から100万点を予定しており，主にこれまで生物学教室標本室（TUS）に所蔵されてきた標本をいれるが，今後の増加分の収容にも備えることとした。

なお，津田弘氏は昭和36年には牧野博士の書斎を保存するための鞘堂を東京都に寄附した方でもある。

（東北大学 理学部生物学教室）

□森　和男：**雷竜の花園** 190 pp. 1987. 東アジア野生植物研究会(振替長野7-27957). ¥3,000(送料¥300). 副題はブータン花紀行。植物愛好家のブータン旅行の一部始終をコミカルに綴ったもの。インドの袖の下地獄と旅行社のデタラメぶりが印象的。カラー8頁のほかたくさんの写真やスケッチを含む。ブータン植物の解説，研究史，文献紹介，人名，植物名索引まで，盛沢山の内容である。　（金井弘夫）